

たすねてみたら

No.95

「加波山講」
を語る

大和田作太郎さん
中町



▲梵天を持って家々を回る子どもたち

中町には子どもたちによる加波山講が伝えられています。町内、家内安全、嵐除けに靈験あらたかな加波山さまは、いつの頃始められたかは分かりませんが、年一回旧暦二月八日、十二月八日昔は若衆により執り行われたお祭りでありました。夕方当屋に集まり、梵天(幣束)へ神酒、赤飯等を供え御神言(後出)を唱え祈り、御神饌を戴いて四方山話をしたり月待ちのようなお祭りで夜更けに梵天を次の当屋に送るといってお祭りでありました。これが長く長く続きました。

宍戸盆地の中央、平町本町、橋爪着町に位置する中町は、江戸時代初期の間屋敷(運送、為替、飛脚)が置かれ町内床(髪結、理髪)も出来て大変繁昌しました。町内も家内も何事もなく、風水害も遠のき加波山さまに絶えることもなくなり、やがてこのお祭りは廃れました。

一番人気

自然観察会

小春日和の武蔵野を行く

歴史を知り、親睦も深まる

11月17日65歳以上の方対象の「自然観察会」があった。参加者は抽選で選ばれた46人。埼玉県新座市野火止にある平林寺と所沢市にある所沢航空発祥記念公園を訪ねた。

平林寺(1375年創建)は約13万坪の境内を有する禅寺で、修行の専門道場を備えている。

総門から本堂まで一直線にある茅葺屋根の四棟(総門・山門・仏殿・中門)は重厚で精巧な造りだ。皆さん立ち止まって見入った。

本堂のある平林寺林泉境内は、修行道場のため拝観はできない。



▲平林寺境内のもみじ

参加者のみなさんは、似たような墓ばかりの中から、信綱夫妻の墓を見つけ手を合わせた。境内林の紅葉はまだ早い。マップと説明書を手にも、これもれ日の中をさらに歩いた。

所沢航空発祥記念公園は、日本で初めて出来た飛行場の跡地につくられた公園で、面積は約15万坪。公園内には、航空発祥記念館をはじめ日本庭園・野球場・ドックラン等様々な施設がある。

希望見学の記念館では、本物の航空機が多数展示され、搭乗可能なヘリコプターに多くの人が乗りめぐらしそうに機内を見まわした。

公園内では、小春日和の午後、武蔵野の自然を満喫するようにのんびりと過ごす人もいた。

出し物に感動

上町で初めてのサロン

前日の大雪が残る寒い1月24日、上町会館で高齢者対象の第19回「しじどサロン」が行われた。参加者は23人と社協関係者7人。上町の90歳代の方4人も元気な姿を見せてくれた。

出し物は、せせらぎ4人のハー

新年おたのしみ配食 手渡してほっと安心

寒中とは思えない暖かい日となった1月18日新年おたのしみ配食が行われた。ひとり暮らしのお年寄り79人に新年お祝い弁当と女性部手づくり会の作った箱ティッシュユカバーがごぶしの会によって届けられた。

当番の女性部3班(旧陣屋)は2日間に渡り、手の込んだ正月料理に腕をふるった。

まちづくり宍戸塾ホタルの里委員会

会が作った

もち米は、

赤飯となつ

た。いろいろ

りも栄養バ

ランスもよ

い豪華なお

弁当が出来

あがった。

今回、1



▲豪華なお弁当と手作りの品



▲手渡して安心のごぶしの会

モノカ演奏とおはなしの会サルビア6人の朗読。創立10年になるせせらぎのレパートリーは100曲位あるという。ハーモノカの演奏でなつかしい小学唱歌を初め、昭和のメロディを大きな声で歌った。

おはなしの会サルビアの朗読はひとり5、6分であるが、その語り方は、美しく、聞く者の心をとらえた。会場は静まり参加者の皆さんは耳を傾け聞き入った。その中で会津のそば売り口上を披露した。

「そば」の一生を面白おかしく話す様に参加者は大喜び大きな拍手を贈った。

午後、南秀利先生から江戸時代の

上町の歴史を聞いた。

江戸迄2泊3日かかった参勤交

代の上町の歴史を聞いた。

月だけの配食希望者が去年の約2

倍となり、女性部は品数の多い料

理の盛り付けに大忙し。配達する

ごぶしの会も全員参加で対応した。

ごぶしの会が配達するなかには、

郵便物や回覧板がそのままであつ

たり、何度も声をかけるが返事が

なかつたりする。そして裏にま

わつてようやく会えることがある。

お年寄りから「ありがとう、ご

苦労様」の言葉にほっとし、笑み

がこぼれるごぶしの会であった。

代時、宍戸上町の江戸道(笠間から石岡への通り道)を150人位の大行列が通った。参勤交代は戦場に行く覚悟で行き、またその費用は一回で今のお金で3億円とすることに皆さんびつくり。

今でも残る宍戸の伝説がたくさんあることも知った。

わくわく

のピン

ゴゲーム

は空くじ

なし。全

員が賞品

を手にし

てサロン

はお開き

となった。



▲ハーモノカ演奏で歌う

水運の盛衰と

食の安全を学ぶ

10月26日女性部研修が行われた。参加者は43人。千葉県立関宿城博物館とヤクルト本社茨城工場を訪ねた。

関宿城博物館長の説明では、関宿は水上交通の要所で、運搬には高瀬船が活躍し、米、イワシ等が大量に運ばれにぎわっていた。

また、水害に遭うこともあり、水塚と呼ばれる独特の建物が作られた。その後鉄道の発展に伴い関宿の水運は衰退したとのこと。

ヤクルト工場では創業者の代田博士の予防医学をベースに、食の安心安全の理念をふまえて、徹底した製品作りには驚かされた。

参加者が



▲関宿城博物館で説明を聞く

らは、歴史、文化にふれ有意義な一日であったことや高瀬船に感銘した等の感想が聞かれた。

常総市三妻支部の皆さんと交流

11月19日(日)常総市社会福祉協議会三妻支部の皆さん18人が、笠間市社協へ研修に訪れた。

研修会は、三妻支部と笠間市社協友部地区を代表して宍戸支部が参加し行われた。

伊東支部長は映像で活動状況を説明した。

質疑応答では、宍戸の配食弁当が1食100円であることに驚いていた。(三妻では400円)

こぶしの会の活動や地区懇談会について質問が相次いだ。中でも二七電話詐欺の被害や対策に関する事が多く、三妻でも詐欺対策が課題であるようだ。

宍戸支部の事業に関心を寄せた三妻の皆さんは、有意義な研修が出来、これからは生かしていきたいと話していた。

第32回 GROUND GOLF

のばそう健康寿命



▲上位表彰者

10月24日第32回宍戸地区高齢者グラウンドゴルフ大会が、北山グラウンドで開催された。台風一過の秋晴れとなり運動には最適な日となった。心配されたグラウンドコンディションも上々で、参加選手75人は日頃の練習の成果を発揮した。

表彰者(敬称略)

スコア	表彰者
☆男性の部	
1位	西谷 吉生 30点
2位	中野 光一 37点
3位	川俣 重穂 42点
☆女性の部	
1位	宮田 久恵 39点
2位	倉持 洋子 43点
3位	羽鳥 政江 44点

ホールインワンは9人。その中で女性部1位となった宮田久恵さんは、一番長い4番ホール(50m)を1打で決めた。見ていた仲間から大きな拍手と歓声があがった。

スポーツの秋にふさわしいで立ちで高齢者が集い、元気に生き生きとプレーする姿がとてまたのもしく思えた。

三世代ふれあいの集い



宍戸 肇 大田町1

某テーマパークが、「家族が集まる。笑顔が集まる。三世代」をキャッチコピーに宣伝しています。

三世代と言えば、宍戸小学校でも、たくさんの方のご協力をいただいで、恒例行事となつて「三世代ふれあいの集い」を10月28日に行いました。

吹奏楽部の力強い演奏に始まり、児童による学年ごとの歌やダンスなどの発表がありました。

子どもたちが、この日のため練習に「本気に」取り組んできたことが、「元気に」生き生きと披露している姿からわかりました。

その後、異学年で行動する縦割り班にて体験活動をしました。上級生が下級生の面倒をみながら各教室で工夫をこらしたゲームや、PTAによる餅つき体験、社会福祉協議会の方々による昔遊び体験を「仲良く」楽しんでいくようでした。

この三世代の集いで、校訓通りの「本気に」元気に「仲良く」を感じることができました。

屋敷は、児童が田植え・稲刈りしたもち米で作った赤飯と、地域の方々から提供された野菜を使い

PTAの役員さんたちが料理したけんちん汁です。

食育に、「コケッココ」症候群」ということが言われています。

①孤食(コ食) 一人で食べる
②欠食(ケッ食) 食事を抜く
③個食(コ食) 家族がそれぞれ別々なものを食べる
④固食(コ食) いつも同じものを食べている、というものです。

みんなでいただく赤飯とけんちん汁は、とても美味しいものでした。児童はもちろん地域の大人たちにとっても、いのちのつながりを学ぶ場となつていと思います。

「子は鎧(かすがい)」と諺にあります。小学校が地域社会の鎧になつて活動だと思えます。

テーマパークにはない、小学校ならではの家族と地元とを結びつける交流の機会となつていきます。



▲昔のおもちゃで遊ぶ

娘の卒業に思う



福島恵美 旧陣屋3区

この春、私が卒業した宍戸小学校を次女も卒業する。これで宍戸小学校を訪れる機会も少なくなるのかと思つと寂しい気持ちになる。さて、娘の卒業を控え、「小学校での娘との思い出は？」と考えた。入学式、運動会、三世代ふれあいの集い等も良い思い出だが、毎日、夕食の支度中や食卓で、時

には風呂の中で娘が話してくれる「今日の出来事」を聴くのがとても楽しかった。友だちや先生のこと、地域の方々のこと、勉強のことや帰り道に見かけた猫のこと等、学年が上がる毎に視野が広がり、観察力も豊かになつて話も上手になつた。最近では雪の日の登校の際に「道が除雪されていてとてもうれしかった。お年寄りの方だけの家もあるのに大変だったよね。」と話してくれた。周りの人への感謝の気持ちも育つてくれたことや地域の温かさに心がぽかぽかした。卒業してからも「今日の出来事」を続けてもらい、思い出を綴つていきたい。

宍戸小での思い出



横手瑞奈 上町

私の6年間の学校生活で一番印象に残っている出来事は、6年生の時の三世代ふれあいの集いで

晴天となつた12月10日、今年で30回目となる旧陣屋チャリティーそば会が、「フェスティバルin冬の陣」として盛大に開催された。

宍戸駅から、宍戸小学校方面への約400mが歩行者天国となり、道の両側には多くの店が並んだ。

チャリティーそば会の会場では、打ちたてのそばを求めて長蛇の列。近隣地区から出店したいろいろなお店も大勢の人でにぎわつた。中程のステージでは、子

どもからお年寄りまで参加し、様々なアトラクションが目まぐるしく行われていた。「地域のふれあい」を掲げる友高生は、友高まんじゅうを売り、ステージでは吹奏楽を披露した。このイベントを通して支部社協に14895円の寄付があつた。



▲地域の方とふれあう友高生のお店

このような体験があり、私にとつて最後の三世代ふれあいの集いは、一生の思い出となりました。(小6)

そして、本番当日、練習してきたことを生かし、みんなで心をついて演奏を開始しました。そして、見事大成功しました。とてもうれしかったです。

また、私たちは、ワークショップにも力を入れました。ワークショップは、グループに分かれ遊びを出すことです。6年生としてグループをまとめたり、地域の人たちが楽しめるように工夫してがんばりました。

す。私たち6年生は、和太鼓の演奏に挑戦しました。しかし、練習を始めると、そう上手くいきませませんでした。リズムが合わなかつた。上打ちと下打ちのリズムが合わなくバラバラになつてしまつた。しかし、私たちはあきらめず、中休みや昼休みなど空いている時間を利用して練習をしてきました。